

令和 2 年度第 1 回 食育推進評価専門委員会
説明資料

食育に関するJAグループの取り組み － Withコロナと今後の食育 －



令和 2 年 8 月 1 8 日
全国農業協同組合中央会



本日の説明内容

1. 食育に関するJAグループの取り組み

2. Withコロナ(新しい生活様式)に向けて

3. 第4次食育推進基本計画に向けて



1-1 みんなのよい食プロジェクト

「みんなのよい食プロジェクト」を展開

○JAグループ全体の一取り組みとして、「みんなのよい食プロジェクト」を展開。心と体を支える食の大切さ、国産・地元産の豊かさ、それを生み出す農業の価値を伝える。



みんなのよい食プロジェクト

1-2 バケツ稲づくりセットの取り組み①

バケツ稲づくりセットの配布(JA全中)

バケツ稲づくりセット(バケツ1個分の種もみ・肥料・栽培マニュアル・お名前シールのセット)を配布。
バケツで稲づくりを体験することで、次代を担う子どもたちに、米や稲作文化、農業への理解を図る。

バケツ稲づくり

セットの内容

とっても
簡単!



- ① 種もみ …………… 「コシヒカリ」
- ② 肥 料 …………… 稲の成長を促す3種類の
肥料を配合。
- ③ 栽培マニュアル …… 芽出しから収穫まで、
栽培の基礎知識を写真と
イラストで解説。
- ④ お名前シール …… バケツ貼付用。



【配布実績】

○令和2年度は約25.4万セットを配布(小学4年生に対して24%換算)。32年間でのべ1,040万人が体験。

【公式ウェブサイト】

○申し込み受付のほか、教育者用指導書、観察ノート、栽培動画コンテンツ等を用意。

【指導者へのフォロー】

○地元JAで問い合わせに答えているほか、全国段階で事務局を設置。教師・生徒等からの質問を受け付け。
○また、教師が取り組みやすいよう、実施した学校の学習計画書(授業計画内容)を参考資料としてウェブサイトで紹介。

1-2 バケツ稲づくりセットの取り組み②

バケツ稲づくりセットの配布(JA全中)・続き

【学習効果】

- 学校から田んぼが遠く体験授業ができない地域の学校でも、稲作に取り組めるほか、稲の成長をきめ細かく観察できたり、できたお米に愛着を持ってもらえるとして取り組む学校が多い。
- 使い方は各学校に委ねているため、教員が独自に工夫を凝らし、様々な発展学習に繋げているケース(指導案)がある。
- 近年は、特別支援学校の子どもたちにも取り組みが広がっている。

【外部団体との取組み】

- 子ども会連合会が推奨。各地の子ども会に推薦している。

【安全への配慮】

- 種もみの誤飲対策として、薬剤を使わず温湯消毒をしたり、肥料の取り扱いについても、指導書上にわかりやすく表示するなど安全面の配慮に取り組んでいる。

【コロナ禍に伴う環境変化への対応】

- コロナ禍で校外学習への制限が出て、田んぼでの体験学習ができなくなったため、バケツ稲づくりに切り替えて稲作体験を継続したり、自宅学習で取り組む学校も出ている。

1-3 コンテスト等の開催①

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール(JA全中)

○ お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般について、応募作品を作ることを通して学びを深めてもらうとともに、子どもたち(小中学生)の優れた作品を顕彰することを通じて、稲作農業の多面的機能と、お米・ごはん食の重要性を広く周知することを目的に開催。過去44回を実施。



内閣総理大臣賞「おむすびは勉強のおとも」



農林水産大臣賞「なえがいつばいのるよ」



文部科学大臣賞「かまどのごはんっておいしい!!」

【実績】...第44回コンクール応募数
作文 50,660作品
図画 60,767作品
合計 111,427作品

【概要】

○市町村段階・県段階・全国段階において、教育委員会や専門家などのご協力を得て実施。
44年間実施。作文・図画合わせて毎回10万作品以上の応募を集める。

【影響】

○参加者は大学進学時に農業・食に関する研究を行ったり、成人後に農業者やJA・食品関係業種に勤務する者も見受けられる(2020年度は開催中止)。

1-3 コンテスト等の開催②

【ザ・地産地消家の光料理コンテスト】(家の光協会)

米の消費拡大や地域内自給率向上をめざし、地元農畜産物を使用した料理、スイーツを募集。

○第1回～17回の累計応募作品総数は6,544点。

○「スイーツ」部門最優秀賞作品は、ホテルのランチビュッフェの期間限定メニューとして提供



【食農教育紙芝居コンクール】(家の光協会)

子どもたちにいのちや食べ物、農業のたいせつさを分かりやすく楽しく伝えるための「紙芝居」を毎年募集(今年で11回目)している。

○優秀作品はレプリカを作成し、JAの親子イベントなどで活用。ウェブサイト「家の光公募サイト」(<https://www.ienohikari-koubo.com/>)から一般の方もダウンロードすることが可能。

○「野菜大好き芸人」としても知られるタレントの小島よしお氏が、本コンクールの第3回最優秀賞作品(「コンタのあついひ」)および第6回最優秀賞作品(「みみずずんずん」)を演じた動画をYoutubeの「家の光チャンネル」で公開中。

【農検栽培コンテスト】(農協観光協会)

全国の中学校・高校・特別支援学校の生徒さんを対象に実施しており、「中学生・高校生が考える日本の農業、創意工夫した農作物栽培について」をテーマとした栽培コンテスト(3年目)

1-4 「食」と「農」の情報発信①

【『ちゃぐりん』の発行】(家の光協会)

食農教育の重要性が増すなか、農業、食べ物、健康、自然、いのちのたいせつさを伝え、子どもたちの思いやりと助け合いの精神を育む雑誌。

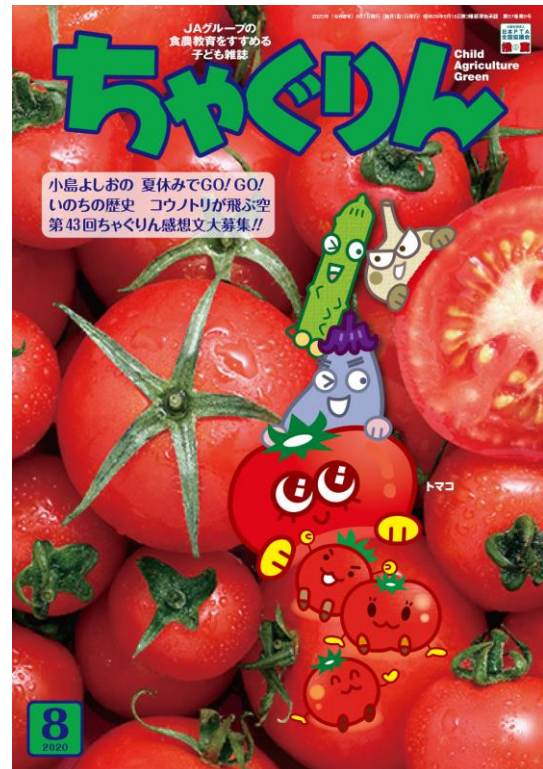
連載企画例:「藤田先生のあっぱれやさい塾2020」「わたしたちSDGs研究会！」

○令和元年度(6月号～5月号)累計部数は576,996部

○第65回学校読書調査

(毎日新聞社主催、2019年調査)の「ふだん読んでいる雑誌」では 小学5年生、6年生男子でともに4位。

2020年8月号の食&農特集企画は「夏野菜で作る すりおろしドレッシング」。旬の野菜を「すりおろす」ことで、そのまま食べるよりも栄養吸収がよくなることなどを紹介しながら、楽しく野菜のおいしさを伝える。写真のキュウリドレッシングはARに対応しており、スマートフォンで動画を見て学ぶこともできる。



1-4 「食」と「農」の情報発信②

【食と農に関する情報を発信】 （日本農業新聞）

- 全国日刊の特性を生かした情報発信は、農業者だけでなく広く国民各層から注目を集めている。
- 2020年4～6月の公式ホームページ閲覧数は100万PVを超える。
- 野菜の相場や米の作柄などTVの情報番組から問い合わせも相次いでおり、専門分野の情報源として一定の評価。

【直売所向けフリーマガジン （フレマルシェ）の発行】

（日本農業新聞）

- 全国のJA直売所約700店舗で配布
- 発行は年4回、部数は各25万部。
- 直売所ならではの農産物や、旬の食材をよりおいしく食べるアイデア、料理レシピ、食と農をテーマにした著名人インタビューなどを掲載。



日本農業新聞・食と農に関する特集面（毎週土曜日付）



1-5 補助教材(テキスト)の配布

【小学校高学年向けの教材本を制作し、全国の小学校および海外日本人学校に贈呈】(農林中央金庫)

小学校の授業において、補助教材として活用されることを目的とする食農教育・環境教育・金融経済教育を基本テーマとした冊子を提供。

我々の生活を維持するために必要な「食」とこれを生み出す農業、環境と農業のかかわり、さらに安定した食の供給のための流通や農産物価格の決め方等について総合的に学習することで、農業に対する理解を多面的に広げていくことをねらいとしている。

○JA・県中央会・信連等が連携し、補助教材を活用した出前授業を開催するなど、生活に身近な食と農について興味・関心を持ち、理解を深める契機となっている。

○授業等で教材を活用した児童からは、「お米や野菜が作られるにはたくさんの手間がかかっていることが分かった」、「農業をする人が高齢化して減っているので、農業をやってみたい」などの感想があり、教師アンケートでは、教材本は使いやすかったですかの問いに対し、「とても使いやすい」、「使いやすい」と答えた方が70%以上となっている。

○累計部数

令和2年度版までを配布し、累計は1,777万部となります。



1-6 教育資材の貸出

【「食農教育紙芝居コンクール」入選作品の貸し出し】(家の光協会)

○第1回～10回「食農教育紙芝居コンクール」入選作品の貸し出し。ダウンロードも可能。



【「お米を知ろう！ パネル」、
「惣一じいちゃんの「食と農かるた」
の貸し出し】(家の光協会)

○お米についての基礎知識を学べる食農教育パネル（5枚セット）



○「食と農」について遊びながら学べるかるた(A5サイズ)



1-7 研修会の開催①(JA職員等の人材育成)

【全国JA家の光食農教育リーダー研修会】・【あぐりスクール全国サミット】 (家の光協会)

【全国JA家の光食農教育リーダー研修会】

○平成19～21年度までの「いのちと食と農を結ぶ 指導者養成講座」を継ぎ、平成22年度よりJA役職員・食農教育担当者、JA女性組織、JA青壮年組織リーダーなどを対象とした「全国JA家の光食農教育リーダー研修会」を毎年開催し、食農教育リーダーの育成をはかっている。平成19年度からの累計参加者数は延べ900名以上。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催中止。

＜令和元年度東京会場 研修カリキュラム構成＞

- ・食の問題すべてに関わるSDGsを知ろう ・最新！食品ロス対策の今
- ・災害時、JAに期待すること ・「グラフィックレコーディング」ってどんなもの？
- ・交流会 ～MOTTAINAI CATERING～ ・すぐに使える！アイスブレイク
- ・グループワーク「食農教育を通じてできるSDGsの取り組みとは？」
- ・「ビギナー向け料理教室」のすすめ方

【あぐりスクール全国サミット】

○子どもたちが農業のたいせつさなどを学ぶ通年型の農業体験である「あぐりスクール」を開校しているJA、またはその趣旨に賛同するJAの役職員が一堂に会し、各地の実践事例に学ぶとともに相互研鑽、交流をはかり、JA次世代対策を積極的に推進することを目的に、平成17年度から「あぐりスクール全国サミット」を毎年開催している。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催中止

1-7 研修会の開催②(JA職員等の人材育成)

【リスクマネジメント研修会】(農協観光協会)

- 農山漁村体験などに関して、
事故発生時や事後の対応も学ぶ研修
 - ・安全管理マニュアル作成のポイント
 - ・体験活動における保険
 - ・事故・災害発生時の対処方法 など



- 農泊事業に従事するJA職員はじめ、農山漁村体験・
自然体験活動の組織・団体及び協議会関係者や指導者などが対象
 - ・過去9年で1,000名の受講者

- 野外活動に精通した弁護士はじめ、長年グリーン・ツーリズムにおける地域振興に
取り組んできた専門家の講習やワークショップの実施
 - ・(講師)弁護士 早川 修氏、新潟経営大学教授 出口 高靖氏 ほか

- 本年6月には新型コロナウイルス感染症防止対策ガイドライン作成の参考となる研修を実施
 - ・事業者向けに60名が受講